

## 独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校と連携・協力の実施に関する覚書を締結しました（2014/9/8）

テーマ：防災・減災の推進、復興支援

場所：東北大学工学部青葉記念会館大会議室（宮城県仙台市青葉区）

9月8日（月）に東北大学青葉山キャンパスにおいて、国立大学法人東北大学災害科学国際研究所と独立行政法人国立高等専門学校と連携・協力の実施に関する覚書を締結しました。福島工業高等専門学校からは、中村隆行校長、青柳克弘副校長をはじめ、芥川一則教授、霜田宜久特命教授、堀川俊行氏、山本直之氏、奥村啓氏、松崎保己氏が出席されました。当研究所からは、今村文彦所長、奥村誠副所長の他、村尾修教授、伊藤潔教授、小野裕一教授、越村俊一教授、丸谷浩明教授、寺田賢二郎教授、遠田晋次教授、江川新一教授、佐藤健教授、松本行真准教授、阿部昭事務長が出席しました。

福島工業高等専門学校が立地するいわき市では東北地方太平洋沖地震により発生した津波により、沿岸部を中心に多くの尊い命と財産が失われ、また東京電力福島第一原子力発電所による事故も受け、双葉郡からの多くの避難者が同市へ流入しました。福島工業高等専門学校では震災直後から双葉郡広野町などの避難者を受け入れるために図書館棟などを開放するなど、避難者への生活支援の他、福島県・いわき市などとの連携による「地域復興人材育成事業」を立ち上げ、地域の復興に寄与する人材育成を行っています。

一方、東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災後に設立された組織で、地球規模の自然災害発生とその波及機構の解明や、東日本大震災の被害実態と教訓に基づく防災・減災技術の再構築をビジョンに掲げ、人文社会科学系と理工医学系の垣根を越えて、減災に係る様々な研究と実践的な取組を推進しております。

同研究所は福島工業高等専門学校の学生・教員らとの協働により、いわき市内地域における防災・減災や復興に関わる委員会等への参加、震災前後のコミュニティ変化に関わるアンケート調査の実施、道の駅よつくら港の活性化支援のための調査、地域住民への避難者調査などを行ってきました。また、平成26年度からは福島工業高等専門学校の有志と共に「地域復興プロジェクト」を立ち上げ、主に豊間地区の復興などに向けた勉強会や委員会に参加するなど、いわき市などの防災・減災や復興に関する様々な取組に連携・協力してきました。

こうした課題と取組がある中で、東日本大震災による被災からの復興まちづくりや防災・減災対策を効果的、そして実践的に進めていくことに関して、今後、さらに互いに連携して、これらを活発化させる礎とするよう、本覚書の締結を行うことになりました。

今後は、更なる協力と情報交換により、防災・減災・復旧・復興に関する研究を進め、将来の再生に向けた人材育成に寄与することが期待されています。

締結式に先立って、両校の代表者6名(各校3名ずつ)による研究発表が行われました。各研究発表題目は、以下の通りです。(敬称略)

<福島工業高等専門学校>

- ・原子力に依存しないエネルギーと安全・安心な社会を目指す地域復興人材育成：青柳克弘
- ・除染土壌管理システムの実証的研究：芥川一則
- ・昭和三陸津波の復興計画に関する検証 一大船渡市綾里地区を事例として一：霜田宜久

<災害科学国際研究所>

- ・災害発生直後の救援活動に資する広域被害把握：越村俊一
- ・東日本大震災のいわき市における取り組み：村尾修
- ・いわき周辺の被災地復興に関する調査研究と人材育成 一豊間地区での取り組みを事例として一：松本行真



覚書締結式



今村所長と中村校長

(次頁につづく)



青柳克弘副校長（福島高専）



芥川一則教授（福島高専）



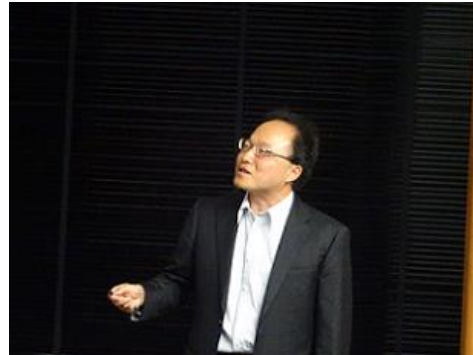
霜田宜久特命教授（福島高専）



越村俊一教授（災害研）



村尾修教授（災害研）



松本行真准教授（災害研）

文責：鈴木通江（広報室）